

# 日本音楽集団

## PRO MUSICA NIPPONIA

第165回定期演奏会  
The 165th Regular Concert

コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズⅣ

### 一柳慧氏からのメッセージ

Composer's project series IV : message from Ichiyonagi Toshi

2001年11月22日(木)午後7時開演  
津田ホール

■主催■

特定非営利活動法人日本音楽集団

■助成■

文化庁・日本芸術文化振興会  
舞台芸術振興事業



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

一、箏篋、箏、龍笛、打物のための

「プラーナ」(1988年) 一柳慧作曲

*Ichiyangai Toshi : Prana*

[箏篋] 佐々木冬彦(助演) [箏] 中村仁美(助演) [笙] 真鍋尚之  
[龍笛] 藤崎重康 [方響] 赤松美樹(助演)

二、三絃、尺八、二面の箏のための

「密度」(1984年) 一柳慧作曲

*Ichiyangi Toshi : Density*

[三絃] 多々良香保里 [尺八] 添川浩史 [箏] I 熊沢栄利子 II 徳野礼子

三、翠彩(みどりいろどり) (委嘱初演) 江村哲二作曲

*Emura Tetsuji : Shining Green*

[笙] I 真鍋尚之 II 野田説子 [箏] I 稲葉明德 II 中村仁美(助演)  
[龍笛] I 藤崎重康 II 添川浩史 [尺八] 米澤浩・加藤秀和  
[太棹三味線] 山崎千鶴子 [薩摩琵琶] 首藤久美子  
[二十絃箏] I 吉村七重 II 田村法子 [十七絃] I 宮越圭子 II 早川智子  
[打楽器] I 仙堂新太郎 II 望月太喜之丞

・休憩

四、尺八、ピアノのための

「ミラージュ」(1998年) 一柳慧作曲

*Ichiyangi Toshi : Mirage*

[尺八] 三橋貴風 [ピアノ] 一柳慧

五、龍笛、箏、尺八、二十絃箏、十三絃箏、打物による

「セレモニアル・スペース」(委嘱初演) 一柳慧作曲

*Ichiyangi Toshi : Ceremonial Space*

[龍笛] 藤崎重康 [箏] 稲葉明德 [笙] 野田説子 [尺八] 三橋貴風  
[二十絃箏] 吉村七重 [十三絃箏] 桜井智永 [打物] 望月太喜之丞

▼ 箏篋、箏、笙、龍笛、打物のための

「プラーナ」

「プラーナ」とは、生命の源泉として位置づけられる精神が、成長する樹木のように、あまねくゆきわたることを意味する。それはまた、「氣」の世界に通じるものでもあることから、作曲にあたっては、音を時間や聴覚体験の次元を超えたものとして存在させることができればという思いがあった。

編成は正倉院の復元楽器である箏篋と方響に、雅楽の笙、箏、龍笛を加えた五重奏であり、絃楽器と打物が動きを伴いながらテーマを写し出す役割を受け持つ一方で、管楽器は静的な立場からイメージを醸成させてゆき、曲の後半で両者は合体される。

▼ 三絃、尺八、二面の箏のための

「密度」

「密度」は尺八、二面の箏、三絃による四重奏曲である。同じモチーフを、それぞれの楽器が、その楽器の特性にもとづいて、少しずつ変形したかたちで演奏する。尺八は持続音と鋭い装飾音などを中心に、箏は旋律と噪音の両面から、そして三絃はリズムのヴァリエーションを主体にモチーフとかかわりあう。

それらの要素が、さまざまに異なった時間の密度を育みながら、同時に空間的に幾重もの層をかたちづくっていく。曲は点描的な旋律と、激しい噪音の要素が、持続的狀態を経て、次第にリズム主体の動きへと変化し、再び持続的狀態を介して旋律の要素が再現されて終りを迎える。

▼ 尺八、ピアノのための

「ミラージュ」

「ミラージュ」は、尺八とピアノという洋の東西の楽器がもつ固有の背景と成り立ちを考慮しながら、両者が独立した主張をくり抜ける部分から、濃密な二重奏を形成する部分までの密度の濃淡が構成の主要素となっている。二つの楽器は中間領域を含めて、楽音と噪音両方の領域を往還することで響きを重層化させてゆく。

1998年10月にロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ主催のコンサートのために書かれ、本日と同じ尺八三橋貴風、ピアノ作曲者により初演された。

▼ 龍笛、箏、笙、尺八、二十絃箏、十三絃箏、打物による

「セレモニアル・スペース」

私は日本の伝統芸術に見られる様式をもった所作が好きだ。お茶を点じたり、花を活けたりする時の所作、あるいは能や聲明などに見られるさまざまな型をもった動作、これらが質感を伴った時、そこに比類のない様式美が立ち顕われる。

「セレモニアル・スペース」は、そのようなイメージを、現代の観点から音楽的表現に結びつけられないだろうか、ということから発想した。もとより、長い年月にわたって培われてきたものとは比ぶべくもないが、私自身の問題として、このことが少しでも音楽を考える上でプラスになれば、という思いもあった。

曲は基本的には合奏曲であるが、それぞれの奏者に、ソリストィックな所作もとりこまれている。また、伝統芸術の特質である音楽における空間性をここでも顕在化する上で、時間の束縛からの解放を意図したセンザ・テンポの個所を、随所に設けている。日本音楽集団からの委嘱で今夜が初演である。



## 一柳慧プロフィール

1933年神戸生まれ。作曲家、ピアニスト。作曲を平尾貴四男、池内友次郎、ジョン・ケージに、ピアノを原智恵子、ヴィヴェレツジ・ウェブスターの各氏に師事。高校時代、第18回(1949年)および20回(1951年)毎日音楽コンクール(現在、日本音楽コンクール)作曲部門に1位入賞。

1954年から57年までニューヨークのジュリアード音楽院に学び、その間にエリザベス・クーリッジ賞、セルゲイ・クーセヴィツキー賞ほかを受賞。ジョン・ケージらと実験的音楽活動を展開し、偶然性の導入や図形楽譜を用いた作品を書き、作曲、演奏の両方で意欲的に活動する。61年帰国。「20世紀音楽研究所」主催の現代音楽祭で、自作ならびに欧米の新しい音楽の紹介と演奏を行い、さまざまな分野に強い刺激を与える。その後も、アメリカのロックフェラー財団や西ドイツ政府をはじめさまざまな団体から招聘され、欧米各地で、自作や日本人作品の演奏を行う。

81年以降、尾高賞4回、中島健蔵賞、フランス政府より芸術文化勲章、第30回毎日芸術賞、京都音楽賞大賞など受賞。89年に伝統楽器群と声明を中心とした合奏団「TIME-東京インターナショナル・ミュージック・アンサンブル-新しい伝統」を組織、欧米各地で演奏旅行を行い、多くの音楽祭に出演。99年紫綬褒章受賞。

現在、「TIME-東京インターナショナル・ミュージック・アンサンブル-新しい伝統」芸術監督、神奈川芸術文化財団芸術総監督、サントリーホール顧問。最近の作品に、弦楽四重奏曲第3番《インナー・ランドスケープ》(1993)、オペラ《モモ》(1995)、交響曲第5番《タイム・パースペクティブ》(1999)、ピアノ五重奏曲《架橋》(2000)、タゴールの詩による交響曲第6番《百年のちに》(2001)、雅楽、声明、伶楽、舞踊、チェロのための《心の視界》(1996)などがある。



## 一柳慧邦楽器作品表

1966	ザ・フィールド(尺八、3管編成)
	シチュエーション(琵琶、箏、vn、cb、pf変調器)
1974	地(3管編成、能管、声)
1978	ディスタンス(能楽者と器楽アンサンブル)
	パースペクティブ(能の舞、fl、vn、perc)
1980/96	往還楽(雅楽アンサンブル)
1981	輪(十三絃、十七絃、pf、perc)
1982/86	えんげん(箏、orch)
1982	臨海域(三絃)
	星の輪(笙)
	光風(龍笛、perc)
1984	密度(尺八、2箏、三絃)
	雲の岸、風の根(伶楽、雅楽 ens)
1985	予兆(龍笛、pf)
1986	笙とハーブのための〈インタースペース〉
	時の佇いI(笙)
	時の佇いII(篋篥)
1987	伶楽交響曲(闇を溶かして訪れる影)(伶楽、雅楽 orch、声明)
	かたちなき無限の余波(箏)
1988	水の聲(瑟)
	風に見る色(尺八、2箏)
	添晴・放・逆(尺八、ondes martenot)
	プラーナ(龍笛、箏、笙、編鐘、舞)
	月の変容(vn、笙)
	花の変容(箏、三絃、尺八)
1989	水の相對(瑟、琴)
	風の階調(龍笛、pf)
	伶楽交響曲第2番《日月屏風-雙虚指》(雅楽、伶楽、声明)
	箏協奏曲【始原】
1990	道I(2龍笛、2箏、尺八、琵琶、2箏、2perc、舞)
	道II(4箏、4龍笛、5笙、琵琶、2箏、尺八、3perc、10声明、舞)
1991	うつし(笙)
	光の空間(笙、ondes martenot、orch)
	朝の頌歌(笙、f-cho)
1992	音合わせ-響きと色と匂いと- (尺八、2箏)
	風光る(箏、pf)
	天龍寺(龍笛、尺八、笙、箏、ondes martenot、perc)
1993	コスモス・セレモニー(龍笛、perc)
	季牙ゆる(箏、pf)
1994	雲中供養菩薩(雅楽、伶楽、声明)
	尺八と弦楽オーケストラのための《共存》
1995	ミュージック・フォー・ヴァイオリン・笙・アンド・ピアノ
1996	心の視界(雅楽、伶楽、声明、vc)
1996/98	ヴォイス・パースペクティブ(声、笙)
1997	龍脈(尺八、二十絃箏)
1998	時の佇いV(方響)
	尺八とピアノのための《ミラージュ》
2001	セレモニアル・スペース
	(龍笛、箏、笙、尺八、二十絃箏、十三絃箏、打物)

## 曲目解説

### 翠 彩

この作品を書き始めた6月の頃、私はパリに居た。透き通るような爽やかな風と、燦々と降り注ぐ陽の光、そして時折さっと雨が通り過ぎ、軒先で一時停止をした街の人たちが、またにわかには動き始める。私の周りにある物すべてが明確なコントラストと色彩を持って語りかけてくる、そんな明るい陽の光の下での風景をもとに、今回私は日本楽器の音色の特徴を生かすこと、つまり「自然な輝きの音」を置くということに拘った。ひとつひとつの楽器が生き生きと自由に息づき、かつアンサンブル全体も皆でいっしょに息をしているような、ゆったりと時間が流れるみどり輝く初夏の明るい午後の昼下がりを感じて頂ければ幸いである。演奏時間：約15分。

## 助演者プロフィール

### 佐々木冬彦 (篋篥)

1987年東京芸術大学卒業、90年同大学院修士課程修了。在学中、作曲を黛敏郎、松村禎三他の各氏に、ハーブを篠崎史子氏に師事。現在は作曲家、ハーブ奏者として、幅広く活躍中。また復元された古代アジアの大型ハーブ「篋篥」(くご/原物は奈良正倉院収蔵)の演奏家の第一人者としても国内外の公演、音楽祭、録音等に数多く出演している。95年福井ハーブ音楽賞第2回国際作曲コンクール優勝。「甦る古代の響き〜篋篥」(99年)はレコード芸術誌特選CD。

### 中村仁美 (箏)

東京芸術大学在学中より雅楽を芝祐靖氏に学ぶ。箏、楽箏を大窪永夫氏に左舞を上明彦氏に師事。1986年より国立劇場主催公演に出演し、以後雅楽古典演奏、現代曲の初演などに携わる。1990年よりTIME、1996年より伶楽祭の欧州各地、米国などの海外公演や音楽祭に出演。1992年より箏リサイタルなどで自作自演、雅楽以外の楽器や舞踏との共演を行う。国立音楽大学などで雅楽実技を教えている。

### 赤松美樹 (打楽器)

東京音楽大学・フランス国立マルメゾン音楽院演奏家コースを首席で卒業。これまでに、松倉利之・有賀誠門・菅原淳・G.Sylvestre・J.Geoffroyの各氏に師事。97年世界現代音楽祭・2000年世界打楽器フェスティバルに参加。留学中よりクラシックを中心に現代音楽・民族音楽・劇場音楽等の分野で活躍。現在はG.Sylvestre等とヨーロッパ各地で室内楽コンサートを行なうなど国内外で活動中。

## 江村哲二



## 江村哲二プロフィール

1960年生まれ。作曲家。92年ルトスワフスキ国際作曲コンクール第1位、93年文化庁舞台芸術創作奨励特別賞、94年芥川作曲賞、98年バザンソン国際作曲コンクール第1位などを受賞。主要作品は《インテクステリア》《プリマヴェーラ》《ハーブ協奏曲》《ローレンツの蝶々》《ザ・ウェッジ(櫻)》などのオーケストラ曲であり、その色彩あざやかな音色で注目を集める。ビョード社(パリ)からも作品が出版されており、海外での演奏や放送も数多い。2000年度オーケストラ・アンサンブル金沢・レジデント。兵庫県西宮市出身。名古屋工大院修了。横浜市在住。

# プラハに響き渡った日本の音たち

～日本音楽集団第25次海外公演の報告～

田村拓男

第25次海外公演は今年5月、「プラハの春」音楽祭からの招聘を機に、パリとモンペリエ、モロッコの4公演を行った。「プラハの春」音楽祭に邦楽アンサンブルが初めて登場。久しぶりの国際的大舞台に立ち、文化交流促進を喜ぶ。

## ★モンペリエ公演 (5/24)

～パレス・オブ・ザ・コングレシーズ

南仏の都市モンペリエ空港には、シンガビー総裁らが暖かく出迎えられた。

氏は'89年、京都市交響楽団と共演した南仏オランジュ公演を聴いておられる。知識だけを教える大学のやり方に幻滅を感じて教授を辞め、共感してくれる人たちと共に、地域の文化興しや理想とする人間社会を築いていこうと実践中であり、その一つの事業として世界ギターフェスティバルを開催し、ギターのみならず世界のさまざまな芸術家を招聘し続けておられる。財政的に困難を極めるも、モンペリエ市、近郊の郡、県(?)からの助成と民間企業からの援助を仰いでフェスの維持に努力しているとのこと。『大切なことはお金ではなく、人間が如何に文化的に豊かに生きて行くかを考え、実践出来るかである』...まさに哲学者といった風格。アンコールには「八木節」のほか、「ボレロ」「コンドルは飛んでいく」など3曲も...。そして「また来年も是非来て欲しい」と...

## ★「プラハの春」音楽祭 (5/27)

～スペイン・ホール

プラハ城に隣接するスペイン・ホールは、高い天井から幾つもの豪華なシャンデリアが下がる王宮の大広間。響きも豪華。ステージ横には青地に白いヴァイオリンf孔の「プラハの春」シンボル・マークが輝く。

オープニング「新八千代獅子」では締太鼓の付けばちの音にのって奏者が登場し、いつしか古色にして華やかな日本の彩りを醸しだす。「古代舞曲によるパラフレーズ」(三木稔)では客演のソプラノ・ヴォーカリーゼ、マトロワ嬢との共演が大きな関心と拍手を呼ぶ。「夢あわせ・夢たがえ」(吉松隆)、鄂曲「鬢多々良」(伊福部昭)と続く今回のプログラミングはとても良かった!。600名を越す



「プラハの春」のステージ、「古代舞曲によるパラフレーズ」(三木稔作曲)で共演のヴォーカリーゼ、テレザ・マトロワさんと拍手を受ける。

聴衆の長い拍手に演奏者や指揮者は何度もステージに戻る。

## ★パリ公演 (5/30)

～パリ日本文化会館

セヌ川のほとり、エッフェル塔近くに建てられた日本文化会館はとても誇らしい。本番当日は、さしたる宣伝をしたわけでもないのに殆どが自らチケットを求めて入場したという(副館長談)聴衆で400のキャパは満席状態。それほどに日本文化に関心を持たれているということか。客席にはパリを本拠に活躍中の指揮者矢崎彦太郎氏の顔も見える。鋭い感性が集るパリで温かく長い拍手を受けられたことは今後繋がる思いがした。

プログラムはプラハと同じ。ただし「古代舞曲によるパラフレーズ」に代えて「セレナード第2番」(田村文生)、「竹籟五章」(諸井誠)の2曲を入れる予定が、事情が生じて「セレナード第2番」のパリデビューが実現しなかった。代わりに琵琶弾語り「那須与一」。

★ラバト(モロッコ)公演 (6/1)  
～国立モハメッド五世劇場(ラバト)

モロッコへは諸般の事情で編成を縮小〔笛、尺八、三味線、琵琶、二十絃箏、太鼓、指揮、スタッフ〕して臨んだ。佐藤裕美大使の熱意で、集団にとって初のアフリカ大陸公演が実現。イスラム教が国教という国、数時間おきに祈りのためのサイレンが鳴る。

「モロッコの聴衆は、シリアスな音楽、テンポ感のない音楽などには関心を示さない。途中で帰ってしまう。太鼓は好き。気に入ったら口笛などを鳴らす。」等々。集団の音楽や演奏がどのように受け止められるか正直不安であった。20～30カ国の大使をはじめ招待客ら約600名の聴衆が演奏開始を待っていた。プログラムは自ずとソリストティックなものとなり、同時に日本の伝統楽器の紹介にもなった。能管・鼓からはいり幕間三重～獅子の狂い五段、琵琶の弾語り、尺八が客席から登場～「鹿の遠音」、三味線「去来」、二十絃箏「華やぎ」、太鼓ソロ「西海楽」で一部を締めくくる構成。客席の反応も上々。二

部では合奏曲「吐玉泉のうた」(長沢勝俊作曲)、「日本・モロッコのうた」が最後を飾る。モロッコのうた「カド・マラカ」が終ると期せずして盛大な拍手がきた。たたみかけるように「八木節」。何と!...スタンディングオベーション。アンコールには地元のウード奏者オマール・エル・イドリッシ氏との共演でモロッコのポルカ風の曲。温かい拍手と花束。帰国後、佐藤裕美大使からは二度にわたる感謝のメールが届いた。



モロッコの日本大使公邸前で、佐藤大使夫妻とメンバー。

【日本音楽集団第25次海外公演プログラム】  
モンペリエ

- 1、「四季・ダンス・コンセルタントI」より  
踊る春・水巡る・エビローグ三木椋作曲
- 2、那須与一 琵琶独奏 田原順子
- 3、三味線協奏曲 長沢勝俊作曲 三味線独奏 箕田司郎
- 4、ソネット三木椋作曲 越智成人、藤崎重康、添川浩史
- 5、芽生え三木椋作曲 二十絃箏独奏 桜井智永
- 6、華やぎ三木椋作曲 二十絃箏独奏 山田明美
- 7、巨火(ほて)より三木椋作曲

ブラバ

- 1、新八千代獅子 畦地啓司・藤舎昌船・三木椋編曲
- 2、古代舞曲によるバラフレーズ三木椋作曲  
ソプラノ・ヴォーカリーゼ・テレサ・マトロワ
- 3、夢あわせ 夢たがえ 吉松隆作曲 二十絃箏・吉村七重
- 4、鄂曲「鬢多々良」伊福部昭作曲

バリ

- 1、新八千代獅子
- 2、那須与一 琵琶独奏 田原順子
- 3、竹籟五章 諸井誠作曲 尺八独奏 三橋貴風
- 4、夢あわせ 夢たがえ 吉松隆作曲 二十絃箏 吉村七重
- 5、鄂曲「鬢多々良」伊福部昭作曲

ラバト

- 1、着到く幕間三重 獅子の狂い五段  
西川浩平、箕田司郎、仙堂新太郎
- 2、平家物語より「忠度都落ち」琵琶独奏 田原順子
- 3、鹿の遠音 尺八独奏 三橋貴風
- 4、去来 秤屋正邦作曲 三味線独奏 箕田司郎
- 5、華やぎ 二十絃箏独奏 吉村七重
- 6、西海楽 打楽器 仙堂新太郎
- 7、吐玉泉のうた 長沢勝俊作曲  
(国連設立50周年記念)

- 8、双魚譜 吉松隆作曲  
尺八 三橋貴風 二十絃箏 吉村七重
- 9、さくらカド・マラカ 八木節 福嶋頼秀編曲

【日程】  
2001年

- 5月22日(火) 成田発  
24日(木) モンペリエ公演/フランス  
(パレストナ・サングレシエズ)①  
27日(日) 「ブラバの春」音楽祭/チェコ  
(スベインホール)②  
30日(水) バリ公演/フランス  
(パリ日本文化会館)③  
6月1日(金) ラバト公演/モロッコ  
(国立モハメッド五世劇場)④  
3日(日) 成田着

【参加メンバー】

- 笛 西川浩平②③④、越智成人①②③  
笙 真鍋尚之①②③  
箏 西原祐二①②③  
尺八 三橋貴風②③④、藤崎重康①②③  
添川浩史①②③  
胡弓 畦地啓司②③  
三味線 箕田司郎①②③④  
琵琶 田原順子①②③④、荒井靖貴②③  
箏 吉村七重②③④、桜井智永①②③  
山田明美①②③  
十七絃 宮越圭子①②③  
打楽器 仙堂新太郎①②③④  
望月太喜之丞①②③  
臼杵美智代①②③  
指揮 田村拓男①②③④  
スタッフ 田村文生①②③ (涉外を含む)  
クリティン 沼野雄司②③  
舞台 (株)アイエムエス 古川尚人①②③④  
尾崎浩之①②③

【助成】

- 文化庁アーツ・プラン  
国際交流基金  
三菱信託芸術文化財団  
野村国際文化財団

【協力】

- 在モロッコ日本大使館  
(株)ジャパン・アーツ



## 日本音楽集団 最近の活動と今後のおもな予定 (2002年5月まで)

2001年 -----

5月22日(火)～6月3日(日)

第25次海外公演(「プラハの春」音楽祭他、モンベリエ・パリ・ラバト公演)

5月25日(金) 「音の装い」コンサート ホテルグランパシフィックメリディアン

5月31日(木) 山形県河北中学校公演「耳なし芳一」他 山形県サハトベに花

6月5日(火)～21日(木) 鳥根県巡回公演(「耳なし芳一」他)

7月9日(月) 大田こども劇場公演「日本音楽集団コンサート「長沢勝俊の世界」大田区民プラザ

8月6日(月) 《グローバル・ピース・ジャパン・コンサート2001～チェルノブイリの子どもたち》に出演  
すみだトリフォニーホール

8月29日(水)～31日(金) 佐久地区巡回学校公演

9月19日(水) 第164回定期演奏会～海外からの作品特集そのV～前世紀の恨を超えて～津田ホール

9月29日(土) 山寺・風雅の国コンサート 山形市・山寺風雅の国「千本桂」

10月7日(日) 《府中伝統芸能まつり》に出演

10月9日(火) 釜石市中学校音楽鑑賞会(「耳なし芳一」他) 釜石市民文化会館

10月17日(水) 熊本県本渡市天草高校音楽鑑賞会

10月19日(金)～20日(土) 熊本県矢部公演

10月28日(日) 第18回新井市民音楽祭 新井総合文化ホール(大ホール)

11月1日(木) 「竹取物語」公演 昭和女子大学人見記念講堂

11月2日(金) スーパー邦楽ライブ福岡公演 福岡シンフォニーホール

11月8日(木) 青少年のための芸術鑑賞会 四日市市文化会館第2ホール

11月9日(金) 小松原女子高等学校芸術鑑賞会 さいたま市文化センター

11月18日(日) 山形県大蔵村「ごんぎつね」公演 肘折いでゆ館

11月20日(火) 葛飾区立道上小学校音楽鑑賞会

11月22日(木) 第165回定期演奏会～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズIV  
一柳慧氏からのメッセージ～ 津田ホール

11月23日(金)～27日(火) 第26次海外公演《韓・日記念民族楽団》ソウル公演

12月12日(水) 《宮本幸子リサイタル・協奏曲のタベ》に賛助出演 abc会館ホール

12月15日(土) 輪島おやこ劇場公演 輪島文化会館

2002年 -----

1月7日(月)～8日(火) 新春邦楽コンサート 新神戸オリエンタル劇場

1月18日(金) 「竹取物語」公演 松本市音楽文化ホールハーモニーホール

1月19日(土) 日本音楽集団演奏会(「四季」ダンス・コンセルタント。他) 秋川キララホール

1月25日(金) 第166回定期演奏会～新春コンサート～ 津田ホール

2月16日(土) ライフサイクルコンサート～「日本」の音、「いま」のおと～ 第一生命ホール

2月16日(土) 川崎市立生田中学校音楽鑑賞会

3月1日(金) 日本音楽集団演奏会(「朱輪金鈴」他) 新潟市音楽文化会館ホール

4月22日(月) 《牧野由多加作品展そのII》に出演 朝日生命ホール

5月24日(金) 第167回定期演奏会～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズV  
吉松隆氏からのメッセージ～ 津田ホール

### 日本音楽集団第26次海外公演《韓・日記念民族楽団》韓国公演のお知らせ

日本音楽集団は、第26次海外公演として、韓日のワールドカップ共催を記念し今月11月26日(月)、ソウルの韓国国立劇場で韓国中央楽管絃楽団との合同公演を行うことになりました。(助成＝文化庁アーツ・プラン、(財)花王芸術・科学財団)

#### プログラム

##### 第一部 日本音楽集団

- 一、新八千代獅子 畦地啓司・藤舎呂船・三木稔編曲
- 二、シナウイ 朴範薫作曲
- 三、大津絵幻想 長沢勝俊作曲  
舞踊：藤間舞佳・花柳奈卯女・若柳恵華

##### 第二部 韓・日記念民族楽団

- 一、伽倻琴コンチェルト 朴範薫作曲
- 二、SOUL 三木稔作曲
- 三、白(改訂初演) 朴範薫作曲

■指揮：田村拓男・朴範薫

■企画構成：米澤浩

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。  
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル 302 TEL 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033  
ホームページ URL <http://www.promusica.or.jp/index.html> E-Mail [office@promusica.or.jp](mailto:office@promusica.or.jp)

賛助会員(五十音順)

(株)全音楽譜出版社  
(株)宮本卯之助商店

中島靖子

青戸順子

青柳堯  
朝吹英世  
安達眞五  
新井克輔  
飯塚絹子  
飯吉正山  
家永和治

逸見護  
伊藤美恵子  
今村厚子  
今村文彦  
植木眞代  
大関富枝  
太田颯衣

川壁正  
岸彰則  
木津のぶ  
小泉和子  
後藤隆  
後藤陽子  
桜田正憲

佐々木浩二  
杉田和繁  
関厚雄  
田原たま  
堤紀江  
手塚愛子  
野原清子

古川羽衣山  
本田実  
水野正徳  
森山俊雄  
渡辺京子  
渡辺ハル  
渡辺治子



アイ・エム・エス ●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4

ゆうでんビル

PHONE.03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

有限会社 琴光堂

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437